

- 日 時 平成25年4月4日(木) 10:00~10:51
- 場 所 中央合同庁舎4号館 共用第2特別会議室
- 出席者 山本大臣、久間議員、原山議員、青木議員、内山田議員、中鉢議員、橋本議員、平野議員、大西議員
松元事務次官、清水内閣府審議官、倉持統括官、中野審議官、森本審議官、山岸審議官

○ 議事概要

議題1. 産業競争力会議等について(状況報告)

- 原山議員 議題1. 産業競争力会議等についての状況報告をさせていただきます。事務局から説明して頂きます。

<内閣府 杉谷参事官から説明>

- 原山議員 この案件ですが、まさに産業競争力会議と総合科学技術会議とのリエゾン役をしております橋本議員から、一言コメントを頂ければと思います。

- 橋本議員 山本大臣も御出席のものが多いので、私から特につけ加えることはありませんが、1点、「資料3」の4ページ目の「2. 健康長寿社会の実現」の日本版NIHに関しまして、これは産業競争力会議における議論ではかなり前向きに進む話となっております。その議論の中で、日本版NIHは、基礎研究からトランスレーショナルリサーチ、そして臨床研究までを一気通貫でやるということで、それに対する司令塔機能が議論されております。それについて私からは、基礎研究の部分では、所謂ライフサイエンスの研究だけを切り出してしまうと、かえって実用化に繋がるような研究成果が出づらくなる、ということを申し上げました。即ち、周辺の他の研究分野との連携が大変重要であるということです。今、イノベティブな研究が成果に繋がっていきこうとしているもの、例えば先週、総理が御覧になり、山本大臣もこの前に行かれました「細胞シート」のお話を事例に挙げましたが、あの研究成果は、ライフサイエンスの研究者と高分子科学の専門家との共同研究で出たものであります。他にもこのような分野の連携から出た事例を幾つか挙げて、他の周辺分野、或いは異分野との共同、融合というのが極めて重要であることを述べさせていただきました。他の分野との連携全体を見るのが総合科学技術会議であり、またその司令塔機能を担う所でもあるので、そのような意味においても、総合科学技術会議の分野横断的に全体を見た司令塔機能と日本版NIHの司令塔機能との上手い連携が必要である、ということを発言致しました。以上です。

- 原山議員 有難うございます。山本大臣、一言お願い出来ればと思います。

- 山本大臣 産業競争力会議について私がコメントしたいことは2点です。

1つは、大きなテーマの一つであった日本版NIHの話ですが、橋本議員から、あまり一つの分野で抱え込まないほうにしたほうがいい、異分野融合がなければ本当のブレークスルーは生まれないという、大変大事なポイントについて指摘して頂きました。日本版NIHについては、総理からも前向きなメッセージが出ていますから、当然積極的に受けとめなければいけないということ（日本経済再生本部において）発言しました。ただ、予算機能を含めた抜本的な機能強化が総合科学技術会議に求められている訳ですから、そことの整合性をきちんと取っていく必要があります。総合科学技術会議でもしっかり見極めていかなければいけないのは、日本版NIHがどういうものになるのか、アメリカのNIHのように、ある省庁に属するものになるのか、どういう巨大なファンディングエージェンシーになるのか、そこをよく見極めて、具体的な制度設計をし、機能を強化した総合科学技術会議ときちんと連携が取れるようにしていくという所が非常に重要だと思います。

もう一つだけ言いますが、石炭火力について、産業競争力会議でも主な議題としてあちこちで出ていますが、日本の技術が世界最高だということです。勿論これも私は前向きに検討するべきだと思いますが、総合科学技術会議として、この問題はきちんと議論し、フォローしていく必要があるのではないかと思います。以上です。

- 原山議員 有難うございました。補足情報ですが、橋本議員が仰った非常に大事な融合ということですがけれども、総合科学技術会議としては先端融合というプロジェクトを、10年ものなのですが今走らせているということもございます。その辺もチェックした上で今後のことを考えております。議員の皆様方、この案件で何かコメント、或いは御意見がございましたらお願い致します。

○青木議員 「テーマ別会合（産業競争力会議）の担当民間議員等の決定について」の中で、科学イノベーションがITとわかれているように見えるのですが、これはどういう関係になっているのでしょうか。主査が2人いますが、テーマ別会合では、議論する時は同じメンバーが議論しているのですか。

○橋本議員 簡単に言いますと、これは、テーマ別会合の数があまり沢山になり過ぎるのもいけないので、また、科学技術イノベーションとITは関連があるということから、テーマとしては1つにまとめ、一緒にテーマ別会合をやっているということです。しかしながら、ITというのはどちらかと言うと技術を使う側で、科学技術イノベーションのほうは技術を開発する側ですので、議論の方向性は多少違います。元々はこういうくくりをしていなかったのですが、テーマ別会合での取り上げられ方の関係で、このような分け方になっていると御理解頂ければと思います。

○青木議員 メンバーは一緒に議論しているということですね。

○橋本議員 そうです。

○青木議員 どうも有難うございます。

○原山議員 その他、ございますでしょうか。今後とも産業競争力会議との連携というのが非常に強く望まれていますし、その線で私共も進めていきたいと思っておりますので、情報の共有、それから、具体的には橋本議員と山本大臣がまさに中に入っていらっしゃる訳で、産業競争力会議との繋ぎを宜しくお願ひしたいと思っております。有難うございました。それでは、議題1を終了させていただきます。

議題2. 「イノベーション25」のフォローアップについて

(率直な意見交換の場とするため非公開)